



標識トランプの開発と可能性について

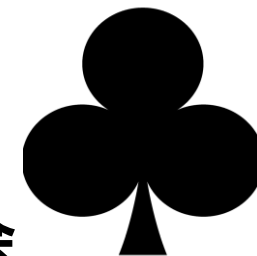
桔梗ヶ原病院

松塚翔司, 佐藤理恵, 中村真大, 中山諒太, 深澤聡志, 園原和樹



2024年12月15日

第8回日本安全運転医療学会学術集会



開発経緯

- ①J-SDSA (Stroke Driver' s Screening Assessment 日本版) の評価項目に「道路標識」(以下, 標識) がある. J-SDSA以外に「標識」を用いた評価ツールは存在しない.
- ②当院では, ドライビングシミュレータ (以下, DS) 以外で運転リハビリテーションを行うツールを模索していた. 運転リハを行う上でDS以外で行えることはないか?
- ③渡邊ら¹⁾によると, 「運転に関連しない不必要な刺激を消去し, また新たな刺激に対し, 注意を向け直す, あるいは同時に注意を向け, これらの操作を休むことなく継続する能力が求められる. 」と報告あり.
- ④前田ら²⁾によると, 「失語症者の交通標識の認知能力は健常者と比較し有意に誤り, また遅延する」と報告あり.

標識トランプ (赤)



標識トランプ（黒）

Q



初心運転者標識
(初心者マーク)

運転者が免許取得から1年
未満のドライバーである
ことを示す



K



高齢運転者標識
(高齢者マーク)

運転者が70歳以上の高齢
ドライバーであることを
示す



標識トランプ（解説カード）

2



車両通行止め

車両（自動車・自転車・原動機付自転車・バイク）は通行することができない

2

3



歩行者専用

歩行者のみ通行することができる（車両・自転車は通行することができない）

3

J



停止禁止部分

車両は標識に示された領域の中で停止してはならない（警察署・消防署などの緊急車両の出入り口に設置される）

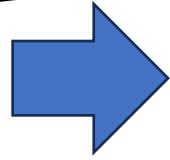
J

活用方法

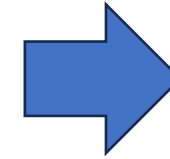
※説明＝標識の名称もしくは意味を答える

【段階づけ】「赤のみ」→「黒のみ」→「混在」

単一課題：
標識説明



複合課題：
課題→標識説明



＋咄嗟の判断
処理能力要素追加

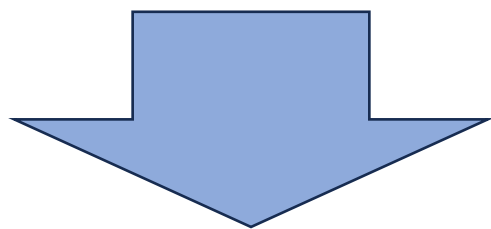
	複合課題	＋咄嗟の判断
特徴	患者自身のタイミングで標識を想起できる.	「複合課題」よりも早く反応する. ※セラピストは2秒後に説明.
分類課題	マーク分類→標識説明	マーク分類→セラピストよりも先に標識説明
神経衰弱	数字を揃えた人が標識説明	数字が揃った→どちらかが標識説明
計算課題	計算→標識説明	計算→どちらかが標識説明
干渉課題	—	標識説明しながらマークごとに身体の一部を動かす

考察

- ・ 安全運転の観点から標識や標示を理解することは重要である.
- ・ 標識を想起しながら他の課題（計算, 処理速度, 記憶等）を遂行することで複数の注意機能（処理速度を含む）に対してアプローチできると考えられる.
- ・ 標識トランプは全28枚と限定的で, 地域特性によって標識や標示が異なることが懸念される.
- ・ 使用方法が多岐にわたることや効果判定の方法等の検討が必要.

結語

- ①標識を再認識することで安全運転への意識が高める
- ②運転に必要な複数の注意機能（選択性, 転導性, 分配性, 持続性）と同時注意・処理能力の向上



リハ訓練ツール



失語症者の評価ツール

参考文献

- 1) 林 恭史, 米本恭三. 脳卒中・脳外傷者のための自動車運転 第2版 28-29頁. 三輪書店. (2016. 10)
- 2) 佐藤 卓也. 失語症者の自動車運転再開支援リハビリテーション. 高次脳機能研究 第38巻第2号. (2018)